

2024年度第1回日本学連幹事会議事録

【日程】2024年6月8日(土) 20:00 ~ 23:10

【開催場所】山の家ゆみち・たかやまでの対面開催 オンライン参加も可としてzoom併用

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、早川正真(立命館大学)、石井雅人(東北大学)

【目次】

1.人事について.....	3
2.春インカレ幹旋について.....	3
3.YMOEとの契約内容について.....	5
4.根岸理事の承認について.....	6
5.インカレ枠配分改正について.....	6
6.部局報告.....	8

2024年度第1回日本学連幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
遠藤陽太	幹事長	東京大学
千葉望央	副幹事長	宮城学院女子大学
岩崎壮馬	会計監査	大阪大学
森創之介	事業部長	横浜国立大学
加藤賢斗	事業部員	筑波大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
横江明弘	普及部員	神戸大学
湊菜々子	普及部員	茨城大学
久保田結理	渉外部長	東北大学
高橋悠	渉外部員	横浜市立大学
川瀬智尋	事務局長	奈良女子大学
石原尋季	事務局員	京都工芸繊維大学
毛利智紀	技術委員会	京都大学
坂本拓登	北東学連幹事長	北海道大学
古谷那奈	関東学連幹事長	千葉大学
森田龍雲	北信越学連幹事長	新潟大学
春田智哉	東海学連幹事長	名古屋工業大学
吉川浩太	関西学連幹事長	大阪大学
加藤優拓	中九四学連幹事長	広島大学
浴本悠貴	理事	神戸大学卒
田中基成	理事	筑波大学卒
稲田旬哉	理事	大阪市立大学卒
根岸健仁	理事候補	一橋大学卒

1.人事(遠藤)

概要

規則では、幹事会の議決権を持つ者は、幹事長、副幹事長と会計、各部局長、各学連幹事長の合計14名であり、今年度ではこの14名を議決権を持つとする。

※技術委員担当・部局員はオブザーバーとして参加する。

また、理事の任期は原則2年であり、2年以上理事を行う方に関しては再度幹事会で承認する必要がある。

質問

坂本:どのような経緯で理事として関わっているのか。

遠藤:現役時に学連の役職をやっていた、社会的に適切なアドバイスをしてもらえる(弁護士など)こと、などが理由である。一方で、現在は名前だけの理事などもいる。基本は無給なので、理事に留まっていた方がいいと思っている。

議決

- | | |
|--------------------|---------------|
| ・筆谷理事長を今年度も続投させるか。 | 多数決の結果、承認とする。 |
| ・高橋理事今年度も続投させるか。 | 多数決の結果、承認とする。 |
| ・齋藤理事今年度も続投させるか。 | 多数決の結果、承認とする。 |

2.春インカレ幹旋(田中)

概要

今年度以降の春インカレで、宿等の幹旋をどのように行うか議論する。

詳細の内容は資料を参照のこと。

今年度の日光インカレについては山川さんの確認がとれてないため、方針が変わる可能性がある。また、学生には意見を言う権利はあるが、議決権を持つものではない。それを踏まえて議論していただきたい。

○コロナ禍前の参加者数に戻っていない(特に春インカレ)原因

全日本や他の大会への魅力の分散、コロナ禍による参加経験の断絶、熱量の消失、日本旅行を通じたパッケージ参加費の高さがある。

○現在春インカレにて旅行代理店を利用している理由

春インカレ特有の課題として、リレーの朝が早く、スケジュールが圧迫していることある。運営者の経験が浅いため、これ以上運営負担を高めるべきではない。

前日・後日のイベントと合わせて交通導線が複雑化している。

春インカレの継続性を維持した改革案を検討している。

→旅行代理店を利用することは春インカレ継続の安定性を高めている。

→安直な廃止は春インカレの継続性自体を脅かす。

改革案として幹旋を廃止するなら、会場と駐車増を確保できるテレインのみになる、モデルイベントのオンライン化や講習会の学連主催化、遅刻などの救済がなくなるなどのことを受け入れねばならない。

春インカレ2024改革案

日光地区の特殊な状況

観光協会の力が強い。定期的に宿泊利用することでオリエンテーリングに対する心象が良くなっている面がある。これは旧市街地の話で、奥日光エリアは無関係である。

→宿泊斡旋を実施：市街地

春インカレ2024での改革案として、交通斡旋は実施しないが宿泊斡旋は実施する方針。

→交通斡旋・手数料で1万円くらいが減り、宿泊費のみであれば1泊の料金も明確なため、学生の心象は良くなるのではないか。

2025年度以降の春インカレの開催方向性

- ・旅行代理店による宿泊・輸送斡旋をしない。
- ・モデルイベントの開催は実行委員会の判断にゆだねる。

制約条件として以下のことを学生が受け入れる必要がある。

- ①会場と駐車場を確保できるトレインのみとする。
- ②宿泊施設の確保、会場への移動のトラブル、スケジュールを守れない場合等の実行委員会側からの救済を行わない。→各大学の責任となる。
- ③宿泊や移動等のトラブルへの救済はなしとする。

質問

遠藤：2025年度以降の春インカレの開催方向性について質問はあるか。

浴本：会場と駐車場を確保できるトレインの具体的な数は把握しているか。

遠藤：SPUに確認を取った。近年春インカレを開催しているトレインでは問題ないのではないかと回答をもらった。

田中：スプリント・ロングに比べれば緩い制約である。

森：開会式は実行委員会に任せるのか。

田中：開会式は学連主導でやる形となり、実行委員会は関与しない。モデルイベントを実行委員会が開催する場合は、タイムスケジュールなど学連側と実行委員会側の調整をすることになる。

遠藤：仕事分担が具体的にどうなるかはさておき、開会式の開催可否は学連が決めることになる。

春インカレ2024について質問・意見はあるか。

田中：補足として、交通斡旋の代替となる駐車場はある、という言質を山川さんから得ているが、詳細については確認できていない。

坂本：山川さん次第では開催地が日光でなくなる可能性もあるのか。

田中：中止やトレイン変更の可能性はある

西澤：交通斡旋がないということは、遅刻などのトラブルによる救済はどうなるのか。

遠藤：渋滞や事故等は遅刻スタートという形となる。従来は、インカレ実行委員会に何らかの対応が可能であった。

加藤(優): 公共交通機関が遅延した場合も同様の対応となるか。

田中: そうなる。

浴本: 宿泊斡旋のみにした場合の旅行代理店からのパッケージがどれくらいの金額になるか分かるか。

田中: 日本旅行の手数料の多くは交通関連で発生しており、1万円ほど減額されるだろう。

毛利: 特定の大学への斡旋免除や選択などは考えているのか。

田中: 考えていない。

遠藤: 以前は宿泊斡旋を選択式にする案もあったと思うが、それはなくなったのか。

田中: 宿泊斡旋の選択が通用するほど、融通が利く状態ではない。

遠藤: それは人数などの都合か。

田中: インバウンドなどにより宿側に余裕がなく融通が利きづらいため、一律でないといけない。

坂本: 前回は、昨年度と同じロジックなら北海道大学は免除されることになるという話だった。

遠藤: 昨年度の議論を一度白紙にして議論したい。

遠藤: 参考までに、昨年度は北大は前日どう移動していたか。

坂本: 前日の時点でテレインから一時間程度の場所に宿泊していた。

久保田: 交通斡旋をしないことによる何らかの関係悪化はあるのか。

田中: それは問題ない。

遠藤: 山川さん談では、春インカレ2022では輸送のバスが足りずかき集めたいらしい。継続した関係性があるわけではない。

田中: 上記の方針で6月後半の開催予定の総会で説明をする。

早川: 秋インカレでは宿泊・交通の斡旋がないが、遅刻やトラブルなどの救済はあるのか。

田中: 考慮していない。

遠藤: プログラムに書いてあるのではないか。

3.YMOEとの契約内容確認(田中)

概要

日本学連では多くのテレインを所有しているが、その管理をすべて山川さんに一任している。地図による収入は一部日本学連がもらい、一部が山川さんの経費・収入となっていた。現在の契約では不十分であると弁護士の天野理事から指摘があった。そもそも山川さんとの契約書が存在していない。

山川さんの業務が複雑化、不透明化しており、明確な業務と報酬を与える形になっていない。業務内容を具体化し、契約内容を明確化し、正式な契約内容をつくりたい。

現在の状態を資料に示す。

山川さんがいなくなったとき、現体制を維持できるようにすることが目的である。

出来るだけ早く確定させたいが、難航することが予想される。

質問

2024年度第1回日本学連幹事会議事録

坂本:新しい契約委託先の最終決定者は誰か。

田中:日本学連の総会で決議される。緊急性が高い場合は幹事会で決めることがあり得る。

田中:脱山川体制の一例として、インカレ地図作成業務の公募化などがある。

現在は、ある程度業務内容を明確化できたため、山川さん以外の人に業務を渡せる状態になっている。

坂本:年額120万での契約は安すぎるという話があったが、山川さんはどう生計を立てていたのか。

遠藤:山川さんは日学以外にも多くの仕事をとっていたので、それなりに収入はあった。

遠藤:山川さんの業務を受注できるのは日程調整に大きな融通を利かせられる人間や、この業務専属の人だけである。突発的な仕事は、仕事量以上の時間を拘束してしまう。

浴本:来年度以降の予算案は大きく変更することになるのか。

田中:報酬等が大きくなる可能性があるため、地図代を値上げするなどの対応が考えられる。

遠藤:地図印刷事業について、そもそも日学が請け負う必要はあるのか。山川さんは主に収入増のためにやっていたと思うが、各大学でも印刷はできる。

田中:適切な地図代金による収入が見込める、枚数管理ができるなどのメリットがある。検討の余地はあるが、日学の収入安定性の観点から大いに価値はある。

坂本:もし日本学連で印刷業務を請け負わないとき、部が日本学連が所有する地図を印刷した場合の扱いはどうなるのか。

田中:地域クラブなどの場合と同じで、部が印刷した枚数は自己申告制になる。

遠藤:地図印刷代や人件費が含まれるため、日本学連の地図は地域クラブ版権の地図に比べて割高(400円～)となっている。

4.根岸理事の承認について

概要

一橋大学卒の根岸健仁が理事に立候補した。

議決

多数決の結果、賛成多数で承認する。

5.インカレ枠配分改正(毛利)

概要

来年度から枠配分は、日本ランキングを用いて行うものとする。

日本ランキングに関してJOA側で変更すると情報が入っている。

→女子に関しては2レースから3レースを算出に用いる予定である。

JOAの基準に従うのか、日本ランキングに関して日本学連側が手を加えるかどうか議論したい。

①日本ランキングとまったく同じ仕組みにして、学生のみ抽出する案

・初年度の10万円のみで運用可能(NishiPROに確認済み)

・JOA側で日本ランキングの仕様に変更があっても、変更後の仕様に則る。

②女子の算出方法を2レースのままとする案。その他の変更を受け入れるかどうかは、都度日学で議論していく。

- ・仕様変更が重なるに連れて日本ランキングと仕様が乖離していく。
- ・コストが初年度10万、2年目以降5万円ずつかかることになる。
- ・全日本エリートと学生では競技者層に違いがあるため、学生の実情に合わせた制度にできる。

これらの案に関して、意見を聞きたい。女子について、フォレストは3レースでも問題ないと思うが、スプリントは出走機会が少なく、2レースの出走のみの選手も目立つ状況である。

→女子の算出方法を2レースのままとする案は主にスプリントに対する懸念から。

質問

岩崎:JOAの日本ランキング仕様で、元々女子が2レースだったのは何故か分かるか。

毛利:3レースの基準を満たす選手が少なかったためである。

坂本:②案の場合、男女ともに2レースにすることは可能か。

毛利:可能だが、検討していない。日本ランキングの計算方式では3本以上のレースが揃っていて適正な実力評価ができる。そのため、よほどのことがない限り、3レースを2レースに減らすということはないと考える。

毛利:いつのランキングを参照するのかが議論になっている。日本ランキングは1年間のスパンで運用されるため、ランキングの参照期間は一年前から提示する必要がある。例えばインカレの3か月前、とすると1年前にはインカレ日程が発表されておらず、その時点を決められない。議論の余地はあるが、今のところ7月末までを参照する予定である。ただ、北東学連が例年実施されるセレクションの日程は8がつである。そのため、セレクションが日本ランキング対象であるため、直近のレースのポイントが乗らない。

浴本:7月末時点までのランキングを参照するのは理解したが、始点はいつになるのか？

毛利:JOAのルールと同じ(1年間。7月末までの場合は前年の8月から)で行う。日学独自のルールを採用することもできる。

根岸:7月末時点とした理由は何か、各学連のセレクション前までの日本ランキングを参照するのはどうか。

毛利:そもそも、粹改正案の案2ではインカレの3か月前と記載があった。インカレの開催日程に依存すると、開催日程が例年1年前までには発表されないことから、どの時点からどの時点までの日本ランキングを参照するのか曖昧となる。そのため7月末とした。

毛利:セレクション前の日本ランキングを参照する案もあるが、各学連のセレは日学が関与できるところではない。

根岸:各学連に通達するのでもよいと思う。

遠藤:日本ランキングは最新のものを利用した方が選出に相応しいと考える。セレクションの日程は渉外上の問題に大きく左右される。1年前の時点では日程がわからないため、セレクション前で切るの難しいのではないかと思う。

坂本:3か月前だったのは、実力の反映と渉外の問題の両方を加味したものであるか。

毛利:そのつもりで元々三か月前としていた。

坂本:なぜ例年関東セレは早い時期に行われるのか。

根岸:7-8月は暑さの懸念がある。9月では不成立になった場合の時間的猶予がない。そのため例年6月の第3-4週になることが多い。

浴本:逆に北東学連はなぜ8月にやっているのか。

坂本: 夏休み中のほうが北大的にはありがたい。また、2日間連続でスプセレとロングセレをやっている。伝統的にお盆に設定されている。

根岸: 東大大会にもセレクションの機会があったのではないか。

坂本: 例年、夏休みのセレクションに行けない人のためにも、東大大会と夏のセレクションを分割した。

千葉: また、セレクションの実行委員会的にも夏休みに実行するのが良い。

坂本: 北東学連的には、何とか合わせることはできると思う。

根岸: ランキングの参照期間の提示は早めに行う必要があるのか。

毛利: そのつもりである。1年前の開始になるので、早めに出した方がいい。

根岸: パブコメを募集している余裕はない？

毛利: ない。1か月くらいで決めて動かなければならない。根本理事のイメージでは、ある程度ざっくりした形を出して、後から調整していくという形を想定していたのではないか。

加藤(優): 今インカレロングの話をしているが、ミドルについても同様か？

毛利: 同様の規約改正になる。ミドルはロングの参照期間に合わせた時期(12月末)を用いることになる。

根岸: 日本ランキングの参照期間の締切がセレ前かセレ後かによって地区ごとの有利不利はあるのか。

毛利: セレクションはある程度の学連の競技者数が確保されるので、特にレースがそろにくいスプリントでは大きく影響されるのではないかと思う。(セレクションがランキング対象レースになるという前提)

浴本: 関東だとランキング対象レースがたくさんあるが、それ以外の地区では対象レースが少ないので、セレを年間3本のうちの1本にするという学生は結構多いと思う。

毛利: 1番論点になりそうなのは、レースの本数とランキングの参照期間。

現状では、エリートの世界ランキングではなく、すべてのクラス(無差別のランキング)を参照することになる。

6. 部局報告

概要

詳細は資料を参照のこと

練習会の集計について

遠藤: 各学連で練習会の集計がなされているか確認したい。報告書は必要ではないだろうが、問題が起こった際の備えとしても、練習会の開催状況を知っておくのはいいと思う。